

問題意識をもち、主体的に思考・判断・表現できる児童・生徒の育成
～ 極少人数教育におけるICTを活用した指導法の工夫を通して～

十島村立悪石島小・中学校

1 研究のねらい

本校では、平成29年度から「問題意識をもち、主体的に思考・判断・表現できる児童・生徒の育成 ～極少人数教育におけるICTを活用した指導法の工夫を通して～」を研究テーマに掲げ、極小規模校の特色を生かした学習指導法の研究に取り組んできた。村内の学校とTV会議で繋いで合同授業を実施し、他者との「対話」を通して、自分の考えをより確かなものにしたり、他の考えと比較しながら意見を練り上げたりする授業を目指した。その結果、相手と考えを伝え合い、深める授業の充実が図られたり、自分と相手の考えが違うことを認め合ったり、根拠をもとに相手に自分の考えをどう伝えるかより深く考えたりする姿も見られた。このように、昨年度は、TV会議システムを日常の授業で活用する場面も増え、同学年で考えを共有したり、練り上げたりするという点で、学ぶ楽しさや考えを通して、交流するおもしろさを感じる子どもの姿も見られた。

しかし、全国学力・学習状況調査や鹿児島県学習定着度調査の結果を見ると、成果が上がっている反面、より高いレベルで成果を出すためには、基礎・基本（知識・理解を問う）分野に対し、思考・判断・表現（学んだ知識を活用する）分野をさらに強化していく必要があることが分かった。そこで、本年度も昨年度に引き続き同研究テーマのもとで、思考力・判断力・表現力の更なる向上を目指すこととした。

2 研究の概要

本研究は、全職員で「研究授業」を通して授業改善を行いながら、ICT等の活用により、思考力・判断力・表現力の更なる向上を目指した研究である。したがって、授業研究の方法や授業作りの視点、ICTを活用した授業づくり、アシストシート及びあくせきドリルの活用について研究を進めることとした。

3 研究の内容

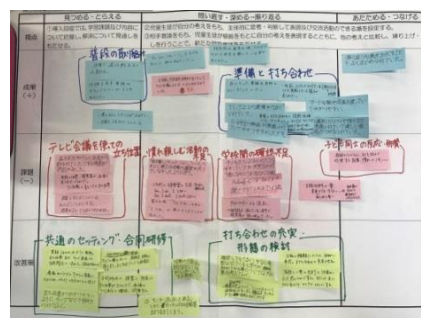
- (1) 授業改善を行うための授業・指導案検討・授業研究
- (2) 極少人数教育におけるICT機器を活用した指導法についての研究
- (3) NRT等の学力検査結果の分析後、アシストシート及びあくせきドリル活用の研究

4 研究の実際

- (1) 授業改善を行うための授業・指導案検討・授業研究

ア ワークショップ型授業研究

全職員で役割分担（全体の進行、各グループの司会及び発表者等）をして授業を振り返り、付箋紙に成果や課題、改善策を書き、グループ内で意見の集約、整理、焦点化し、授業の具体的な改善点や工夫について話合ってから発表をする。それらの資料(写真1)をもとに全体で具体策を練り上げ、日常の授業改善に繋げていった。



【写真1：グループ内のまとめ】

イ 授業づくりの視点

- (ア) NRTやCRT、学習定着度調査の分析及び生徒指導における児童生徒についての共通理解をもとに、授業での必要な支援や手立てを考える。
- (イ) 児童生徒の学習意欲を高め、知識・理解、学び合い（話し合い活動・伝え合い活動）、思考力

を深める手立てとしてICT機器を活用しながら、確かな基礎・基本の習得と一人ひとりが主体的に学ぶことのできる授業づくりを目指す。

- (ウ) 児童生徒の実態及び研究テーマを踏まえ、各教科一単位時間の授業において、次の三つの視点で指導法の工夫・改善や授業作りに努める。

〈視点1〉 導入段階では、学習課題及び学習内容について把握し、解決について見通しをもたせる。
 〈視点2〉 児童生徒が自分の考えをもち、主体的に思考・判断して表現及び交流活動のできる場を設定する。
 〈視点3〉 相手意識をもち、児童生徒が根拠をもとに自分の考えを表現するとともに、他の考えと比較し、練り上げ、見直しを行うことで、新たな問題意識をもたせる。
 (※それぞれの視点において、必要に応じてICT機器の活用)

- (2) 極少数人数教育におけるICT機器を活用した指導法についての研究

極小規模校においては、自校の小集団での学び合いだけでは思考力・判断力・表現力を高めることには限界がある。そこで、TV会議システム(写真2)を活用して、自校での学び合いにプラスして、他校との学び合いを行うことで、効果が上がるものとする。ただし、TV会議システムでただ繋いでやっただけでは、成果も上がら上記(ウ)の視点1から3の視点を取り入れたTV会議を行った。結果、発表のための深い学び合いや発表をする際にジェスチャーや表情の工夫を入れたりするなど、表現力を高める姿が見られた。



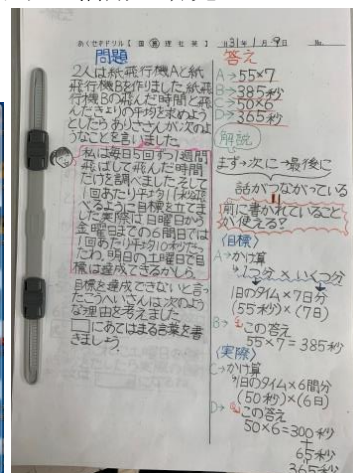
【写真2：授業の様子】

- (3) NRT等の学力検査結果の分析後、アシストシート及びあくせきドリル活用の研究

本校は極小規模校であることから個に応じた手立ては取りやすい環境にある。NRT検査や全国学力学習状況調査、鹿児島定着度調査など分析を行い、分析で終わるのではなく、個々の不得意として問題を類題として与えてくれるアシストシート(アシストシート作成ソフト:写真3)の活用や日々の問題などで不得意となっているような問題を拾い出して作るあくせきドリル(写真4)を活用して、不得意分野をなくす取組を行った。



【写真3：アシストシート作成ソフト】



【写真4：あくせきドリル(小6算数)】

5 研究のまとめ

- (1) 成果

ア 授業づくりの視点を考慮し、ICT機器を活用した授業を実践したのちに、ワークショップ型授業研究の実践で、思考力・判断力・表現力を育成する授業の在り方を全職員で共有することができた。

イ アシストシートの活用やあくせきドリルの活用により、問題意識をもつ児童・生徒の育成が図れた。

- (2) 課題

ICT機器の活用に関しては、ただ使うだけでは効果がなく、視点をもった活用が不可欠である。そのためには綿密な打合せの時間が必要であり、その時間確保が課題である。

6 今後の取組

本年度の研究をもとにして、思考力・判断力・表現力をさらに「主体的・対話的で深い学び」へと繋げていく授業実践やあくせきドリル等のさらなる活用法についての研究を進めていく。